

WEEKLY

一宮

題字 PG 安野謙次



重文「陵王」面 真清田神社蔵

Rotary
一宮RC



The Rotary Club of Ichinomiya

●例会日 木曜日 ●例会場 一宮商工会議所 ●承認日 昭和24年12月31日

●事務局 一宮市栄4-6-8 一宮商工会議所ビル5階 電話(0586)24-1931 ☎491-0858

ロータリーのマジック

URL:<http://rc138.org>

E-Mail:rc138@lily.ocn.ne.jp



2024年10月31日
第3612回例会



会 長 佐々木久直 会長エレクト 山上 哲 司
副 会 長 森 克彦 副 幹 事 大 鹿 晃 裕
幹 事 鶴 飼 雅 弘 会報委員長 浅 野 一

プログラム

卓 話
伏屋正子氏
(㈱CBCラジオ大阪支社長)
テーマ「均等法女子 かく戦えり」

ロータリーソング「四つのテスト」

第3610回例会の記録
2024年10月10日(木)

会長挨拶

佐々木久直

今週に入り朝夕が涼しくなり、秋の気配も感じるようになりました。7日(月)の吉川ガバナー公式訪問に続き今週は2回の例会開催となりますが、本日も例会にご出席いただきありがとうございます。8日(火)に開催された西尾張分区ゴルフ競技大会には、当クラブより25名もご参加いただきありがとうございました。渡辺一弘さん、吉山佐人規さん、中西啓太さんの活躍により団体戦で準優勝いたしました。

今月は「米山奨学生」月間です。米山奨学生の李昱さんが卓話をされます。また、2022-23年度の米山奨学生であり、ネパールと日本の架け橋として大活躍中で米山学友でもあるカルキ・ダル・バハドゥル君が例会に参加してくれました。

米山奨学金について少しお話をいたします。日本ロータリーの創始者である米山梅吉氏の功績を讃えるため、東京ロータリークラブが1952年(昭和27年)に「米山基金」を創設。海外から優秀な学生を日本に招き、勉学を支援する奨学金事業として「米山奨学金」がスタートしました。事業の使命は、奨学生がロータリーのよき理解者となり、日本と世界を結ぶ「架け橋」となって国際社会で活躍する人材を育成する事です。1957年(昭和32年)に全国のロータリークラブに参加を求めて以来、今や日本の全ロータリークラブの共同事業へ発展しました。

全ての奨学生は毎月1回「世話クラブ」の例会に出席し、世話クラブの担当委員長と会員カウンセラーが

次回の予定

クラブアッセンブリー
創立75周年記念式典打ち合わせ

奨学期間中の相談役を務めます。会員との交流により日本の社会を知り、ロータリーの奉仕の精神を学びます。2023-24年度の奨学生数は926人、事業費は15億6百万円、累計奨学生数は24,133人、世界133の国と地域に及び国内最大規模の民間奨学金です。今年度の2760地区の奨学生の受入れクラブは、84クラブ中53クラブと6割以上の実績となっています。

先月9月24日の地区米山奨学生委員会議にて、一宮ロータリークラブが6千万円達成クラブとしてガバナーより感謝状をいただきました。いままで寄付を続けていただいた会員の皆さんに感謝申し上げます。歴史と伝統を感じた一日でした。

ロータリーの友9月号

中島崇介

表紙の絵は、千葉県千葉市の福祉施設まるい広場の方々で作られた再生和紙と木片を使ったアート作品です。

横組み7頁からは人の暮らしがあるところに必ず歴史があり「名士」の姿があるということで、静岡県駿東郡長泉町、埼玉県深谷市、大分県中津市が取り上げられています。長泉町は日本のロータリーの創設者である米山梅吉が幼少期を過ごした場所、当地にある雅号の「藍壺」は「鮎壺(藍壺)の滝」に由来するそうです。

続いて深谷市に縁のある渋沢栄一、中津市に所縁のある福沢諭吉の新旧一万円札の二人について記載。

縦組み4頁は、南房総の鋸南ロータリークラブのロータリアンで訪問介護を手掛ける堀田さんが寄稿。2019年9月9日に台風が襲い、被害総額505億円、死者9人、負傷者160人を数え局地激甚災害に認定。町は完全に停電。猛暑で食材も保存も出来ず、風呂も入れず、情報も遮断。そうした経験からロータリークラブの有志ボランティアグループを創設。友情と奉仕の精神が根付いていることが窺えます。

委員会報告

ニコボックス

高木道久

☆ 柴垣健一君 カルキ・ダル・バハドゥル君

米山学友のカルキが弊社に入社して1年半が経ち、立派な社会人となりました。今、カルキは一宮初となるVEGA日本語学校の留学生の学生募集と生活指導担当として活躍しています。明日10月11日第一期1.5年コース20人の入学式を迎える喜びで。

☆ 渡辺一弘君

西尾張分区ゴルフ競技大会にてナガシマカントリー北コース組で優勝させて頂きました喜びで。同組の都築さんの応援のお陰です。ありがとうございました。

☆ 佐々木久直君

10月8日(火)の西尾張分区ゴルフ競技大会へ25名の皆さんに御参加いただきありがとうございました。渡辺一弘さん、吉山佐人規さん、中西啓太さんの活躍で団体の部で準優勝いたしました。

☆ 佐々木久直君 鶴飼雅弘君

米山学友のカルキ・ダル・バハドゥル君と米山奨学生の李昱さんをお迎えする喜びで。西尾張分区8クラブと東尾張分区2クラブを訪問し、75周年記念式典のPRができた喜びで。

出席報告

現在の会員数	114名
本日の出席数	60名
前々回の出席率	100%

***** プログラム *****

米山月間卓話

李 昱さん(米山記念奨学生)

愛知大学大学院・中国研究科

博士後期課程二年生

テーマ「私の研究テーマについて」



2015年4月 来日

2015年-17年 千駄ヶ谷日本語学校

2017年-21年 駿河台大学メディア情報学科

2021年-23年 愛知大学大学院中国研究科

修士課程の修士論文

満洲国の「建国大学」における民族協和思想の実態をテーマに、日本が掲げた「民族協和」や「王道楽土」の理念が教育現場でどのように具現化され、現実との矛盾がどのように生じたかを明らかにしました。

2023年 愛知大学中国研究科博士後期課程

博士課程の博士論文・研究計画

建国大学と日本の帝国の学知に関する研究計画は、日本の帝国主義と知識の生成・流布の関係を明らかにすることを目指す。具体的には、満洲国に設立された建国大学に焦点を当て、その学術活動がどのようにして日本の帝國的な政策に貢献し、影響を与えたのかを検討したい。建国大学は、満洲国の理想を具現化する「民族協和」の理念を掲げましたが、実際には日本の帝国主義的な野心が背景にあった。この研究では、建国大学研究院や学者たちの活動を分析し、特に社会科学や人文科学の分野における研究がどのように帝国の利益に沿った形で行われたかを解明します。また、日本の知識人が建国大学で行った研究が、戦後日本の学問や社会にどのような影響を及ぼしたかについても考察する。本研究は、日本の帝国主義と学知の交差点を明らかにし、現代における学術の政治的役割についての新たな視点を提供することを目指しています。

2024年4月から2026年3月米山記念奨学生採用

第3611回例会の記録

2024年10月24日(木)例会変更

創立75周年記念植樹例会 真清田神社

鳳稀かなめトークショー

